

## 2023（令和5）年度 社会福祉法人ひかり福祉会 事業方針及び計画

令和2年4月28日厚労省より障害者施設等事業所人員基準等臨時的な取り扱い（第5報）が通知されています。内容として、ヘルパーなど該当資格がない者であっても、他事業所でのサービス提供経験がある者であれば、市町村判断で幅広く認められる（ボランティア、一定の介護経験ある者含む）とあります。

コロナ禍における緊急措置でありやむを得ない状況、見方を変えれば福祉は誰でも行える仕事であるともいえます。良い効果も見込めますが、一方で支援の質、サービスの質と密接に関わっていると思われまます。

近年各地で起こる障害者虐待報道が後を絶ちません。残念ながら当法人も例外でなく、GHにて虐待事案が発生、県、市行政への報告及び指導を受ける事態となっています。個人が行ったことと帰結させるのではなく、日々の利用者支援における健全な牽制を行える関係づくりや研修等、法人として体質改善していくことが必要です。

現在、生活介護においては、多種多様な加算を得るために、対応した職員配置（資格習得した職員配置）を行っています。就労継続B型では平均工賃を上げなくては報酬単価を維持できないこと、相談業務や居宅事業では、困難な地域実情を目の当たりにし、傾聴し対応を進めていること、GHでは、日々を支える世話人多くは60～70代、その方たちがおられなければ運営は成り立たない、そのような現状です。当然法人として、サービスの質の維持、向上に努力を行うことはもちろんですが、職員の獲得と育成がますます困難となっており、経営面では就労系事業、補助金事業の多くは、収益が出ている事業所から資金を回すことで成り立っています。

福祉だからと言って、決して安定、安心して事業を行える状況ではありません。私たちの意識を変えていくことや私たちの努力だけでは太刀打ちできない課題もあります。行政含む関係機関と連携・協力し対応に当たっていくことが必要となっています。

普段の暮らしを誰もが維持で精いっぱいであり、誰もが簡単に維持できなくなる社会となっています。それ以前から、障害のある方たちは一方的に社会的弱者としてカテゴライズされてきた経過がありますが、私たちは、その見方を逆手にとりアピールできるのではと考えています。障害のある方たちの生きる豊かさや楽しさの具体化、これは強力な地域への発信となり、私たちの強みとなります。

法人理念「ともに挑戦し 時にはユニークな発想で えがお あふれる人生をつくりまます」の実現に向け、一歩踏み出す具体的な手立てが求められています。

2022年度においては以下のことに取り組んでいます。

職員による事業所体験、利用者・家族・職員への満足度アンケートの実施、職員研修（管理職セミナー計5回実施 階層別職員研修4回実施）を実施しました。この取り組みを育てる、活かす1年とするため、2023年度は下記の4点を方針として掲げ、推進していきます。

### ①利用者支援を中心と考える職員

職員都合で支援や事業を展開していないか、再度問い直すこととし、支援の基本をしっかりと行う1年とします。

### ②変化への柔軟な対応

卒業後の進路、地域の利用ニーズは、社会情勢を反映しながら変化してきています。給料が高いとこ

ろが良い、送迎に柔軟に対応してもらえる、開所時間等様々にあり、全てを対応できるわけではありませんが、利用ニーズの変化を機敏に捉えながら対応できる事業所へと成長していきましょう。

### ③切磋琢磨し合える職場環境の形成

事業所体験により、様々な支援があることを認識していただけたと思っています。職種が違うから自分とは関係ないではなく、互いにコミュニケーションを図りながら連携した支援、学び合える（聞き合える）関係づくりの促進を図ります。

### ④ひかり福祉会内において、虐待（不適切な対応含む）を「0」にします。

昨年、一昨年度と虐待事案が発生しています。この事態を真摯に受け止め、方針に改めて掲げることで支援の質の向上を図ります。

#### ◆方針を実現するための、具体的な計画

\*各事業所計画を参照願います。

また、管理職研修及び階層別職員研修の実施、事業所体験については、2023年度は任意の取り組みとします。PJ2は、継続と更なる具体化を、とりわけ湖北圏域GHのあり方（米原 newGH設立）についてはPJを通して推進していきます。

#### ◆方針④に関わって

虐待事案が発生していることを真摯に受け止め、今後起こさないよう職員間で健全な牽制関係を築くこと、そのためにはまず、管理職自らが率先しその発信に当たっていくこととしています。今回新たに方針④を加えた経過として、主体性と想像力を管理職や職員に求めすぎている経過がなかったかと振り返っています。主体性と想像力が先行するあまり、抽象的な言葉、表現が多くなり結果どう進めていいのか分からない、そんなことに陥りがちではなかったかと思っています。

そんな状況もありつつでしたが、GHにて発生した虐待案件について話し合うことを通じて、それぞれの管理職が自身の考えを伝え合う中で、まずは一緒に取り組める「共通の課題」「共通言語」になりえるのではないかと考えました。また起こっている事象もとても看過できるものではありません。以上を踏まえ、方針④を掲げています。

#### ◆方針を自身のものとしていくために

方針①～④は一見当たり前のことを書いています。ですが、支援の基本とは具体的にどういったことなのか、不適切な対応とはどのようなことを指すのか、職員1人1人が、また事業所でその中身を話し合い具体化し、まずはどういったことを進めるのか、注意するのかが求められます。その過程を経ることが、方針及び理念の実現に近づくことと仮説を立て、今年度の事業推進にあたっていきます。

2023（令和5）年3月24日理事会  
社会福祉法人ひかり福祉会  
理事長 高橋 信二